

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島郡瀬戸町24
電話 2-9772

西ノ島町の教育活動

西ノ島町教育委員会が取り組んでいる教育活動の様子を紹介いたします。

【学校教育への支援】

①OJTの支援
西ノ島町内の学校には二十代の教員が多く勤務されています。その先生方の日々の指導が充実するためには、中堅・ベテラン教員からの校内でのOJTが必須です。中堅・ベテランの先生方にとって

も、若手に伝え教えることで自分の教育活動を見つめ直し整理することになり、指導力の向上が図られます。

そこで、今の若手教員が多いことと、小中一体型校舎ということを利点と捉え、OJTの推進を図れるよう支援をしていきます。

②授業力向上に向けて

西ノ島小学校、中学校の先

生方は、全て、授業のはじめに「学習課題」を提示していただきます。そして、まとめも、子供たちの意識を大切にしながら行おうとしています。今年度は、さらなる授業力向上のために『授業のねらい』『学習課題』『授業のまとめ』が整合性のある流れとなつていくかどうかを視点に持ち、授業実践に取り組んでいけるよう支援しています。

③通信の発行

県教委と国の教育施策や方針等が、先生方に少しでも分かりやすく伝わるように、週に一回程度、通信を発行しています。忙しい先生方がじっくり読むことができるように、回覧形式ではなく、一人ずつに配布しています。

また、参観授業後に話し合ったことを実践に生かしていただくために、通信に掲載し、OJTを支援しています。

今年、西ノ島町教育委員会で進めている「教育魅力化」の一環である『しま留学』で三家族が来島しました。スムーズに学校地域に馴染めるよう、魅力化コーディネーターと協力しながら支援しています。

(派遣指導主事 塚本)

【新たな人づくりの拠点

オープン

七月二十一日、新しい社会教育施設として、西ノ島町コミュニティ図書館(愛称「いかあ屋」)がオープンしました。

社会教育施設と言えば、やはり公民館が思い浮かぶことと思います。事実、これまで、私たち社会教育主事が関わる施設は公民館が主だったものでした。

図書館の役割とは、人々の学習に必要な図書や資料、情報を収集し、提供するものとされています。しかし、最近では、図書館の在り方に新しい価値を認める動きがあります。

例えば、知夫村図書館(知夫小中学校一階フロア)は「地

域交流室」という空間を設けており、地域住民が自由に集う場所となっています。この地域交流室は学校と地域をつなぐ場であったり、住民同士が顔見知りの関係になったりする場として、大切な役割を果たしています。

一方、西ノ島町コミュニティ図書館ですが、その名の通り、図書館としての役割に加えて地域コミュニティを強化することもねらっています。

設計段階から、月に一度の「縁側カフェ」(図書館に関するあらゆることを話し合う場・参加自由)を開催しており、図書館の設計や運営方針などについて、自由な議論が進められてきました。また、オープンにあたっては、縁側カフェに集まった有志「いかあ屋応援団」によるイベント企画や出店がなされました。

どちらの図書館においても、「人が集い、動き出す」ことを意図した取り組みがなされており、ここに「学び」を取り入れることで、しまねの社会教育が目指す「人づくり」の場として機能すること

が期待されます。

(派遣社会教育主事 木下)



開館を祝って踊りを披露する子供たち

知識と知恵で支える キャリア教育

今年度、隠岐教育事務所では管内学校教育の重点「特別活動」で「系統的なキャリア発達を促す取組の充実」を挙げました。各教育活動の中で「基礎的・汎用的能力」を育むというキャリア教育本来の役割を明確にし、小・中・高の繋がりを意識した教育活動を展開するよう努めるとしています。汎用とは「幅広く応用可能なさま」という意味です。私たちが生きている社会では、予測が難しい事が次々に起こっています。ネットを介した犯罪やトラブル、自然災害、不幸な事故や病。この中で生きぬくには幅広い知識

や応用力が必要になります。私たち大人が、子供に対して「強い人」になつてほしい」という願いを抱いたと思います。では、具体的に強い人とは、どのような人を指すのか・・・と問われれば、そこに様々な意見が出てきます。多様性のある社会であれば、人の強さも多様なものが認められ、伸ばされるべきではないでしょうか。知識と応用力があれば生きていける。それが難しいければ「助けてほしい」と言える力や、助けてくれる人と繋がる力があれば生きていける。更にそれが難しくければ、ネットなどを利用し、必要な機関へ繋がるようとする力があれば生きていける。

大人の知識が社会の変化に追いつかない時代です。しかし大人には様々な経験から学び取った「知恵」があります。応用する知恵、助けを求める知恵、助け合うための知恵。知識とこの知恵をもって子供たちと共に多様な道を考えていくことが大切であると思います。

(文責 新谷)